

おokayama 地域づくり通信

第7号

2024年度
(令和6年度)
第1号

ESD・市民協働推進センターの10年

2014年(平成26年)6月に「ESD・市民協働推進センター」が開設されてから今年で10年を迎えます。これまで岡山市の協働推進とESD・市民協働推進センターの事業に関わってくださった皆様へ感謝を込めて、岡山市の協働推進に関する取組とESD・市民協働推進センターの実績等をご紹介します。



ESD・市民協働推進センターのスタッフは、岡山市役所(市民協働企画総務課)内に常駐し、日常的に行政、NPO、町内会、企業、学校、公民館などの様々な主体をつないでいます。協働のコーディネート機関が庁舎内に拠点を置いているケースは全国的にもめずらしく、市民・市職員の双方に近い存在であることが、協働の「マッチング」や「伴走支援」の効率化につながっていると考えられます。

ESD・市民協働推進センター設置の経緯

「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催を約5か月後に控えた2014年6月、岡山市役所内に「ESD市民活動推進センター（現在のESD・市民協働推進センター）」が開設されました。これは、岡山市内のNPO役員等を構成員として発足した「岡山市・NPO協働推進協議会」が岡山市長に提出した「岡山市の協働推進に関する提案書」にて「協働推進のためのコーディネート及び相談機関の設置」の必要性が述べられていたためです。なお、同年に「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催を控えていたことから、協働と同様にESDの推進にも貢献することが期待され、名称に「ESD」を冠することになりました。センターの開設から約2年後、改正された「協働のまちづくり条例」にて協働のコーディネート機関に位置づけられ、現在まで各種協働推進施策に関連する事業を行っています。



←2014年4月21日、「岡山市・NPO協働推進協議会」によって、「岡山市の協働推進に関する提案書」が岡山市長に提出されました。提案書にはESD・市民協働推進センターの設置のほか、協働のルールづくり(条例改正等)、人材育成、協働で考える場、協働推進委員会の必要性が記載されていました。



←2015年2月17日、岡山市勤労者福祉センターにて実施された「条例改正記念フォーラム」には、200名を超える市民が参加しました。岡山市・NPO協働推進協議会のメンバーによる改正条例の解説のほか、連合町内会、NPO法人、企業、行政のそれぞれの立場の登壇者によるパネルディスカッションが行われました。

協働のまちづくり条例改正とESD・市民協働推進センターの開設に関するトピックス

2012年度	4月 特定非営利活動促進法改正により、岡山市がNPO法人認証・認定の所轄庁となる 7月 岡山市が協働関係課で構成する「岡山市市民協働推進会議」並びに同ワーキングチームを設置 8月 岡山市内のNPO役員等で構成する「岡山市・NPO協働推進協議会」発足 8月 NPOと岡山市職員を対象とした合同研修会を開催 2月 NPOと岡山市職員を対象とした合同研修会を開催
2013年度	11月 NPOと岡山市職員の協働による「協働Q&A」作成開始 11月 「市民協働推進モデル事業」のパイロットとしてNPOと岡山市の協働による調査事業を実施 2月 NPOと岡山市職員の協働による「協働Q&A」完成
2014年度	4月 「岡山市・NPO協働推進協議会」が「岡山市の協働推進に関する提案書」を岡山市長に提出 6月 「市民協働推進モデル事業」提案制度開始 6月 「ESD市民活動推進センター（現ESD・市民協働推進センター）」開設 8月 フォーラム「岡山市の協働条例を考える」を開催 9月 行政とNPOの協働の課題を洗い出すワークショップを開催 10月 フォーラム「岡山市の協働条例を考える」を開催 11月 「ESDに関するユネスコ世界会議」が岡山市と名古屋市で開催される 3月 地域住民組織・大学・事業者・NPOへ「協働の課題に関するアンケート」実施
2015年度	4月 フォーラム「岡山市の協働条例を考える」を開催 6月 「岡山市・NPO協働推進協議会」が「岡山市協働のまちづくり条例」改正案を岡山市長へ提出 8月 「岡山市協働のまちづくり条例」改正に対するパブリックコメントを実施 9月 地域・子育て・企業・若者の4テーマによるフォーラム（公聴会）を開催 11月 11月市議会に「岡山市協働のまちづくり条例」の改正案を上程 12月 「岡山市協働のまちづくり条例」改正が市議会で可決・成立 2月 条例改正記念フォーラム開催
2016年度	4月 「岡山市協働のまちづくり条例」改正施行 2月 第1回「おかやま協働のまちづくり賞」受賞団体決定 2月 岡山市協働推進計画(2016年度～2020年度)策定

条例改正時の岡山市の担当職員 武 裕子さん に当時の思い出をお聞きしました。

当時、岡山市の協働は全国的にはとても遅れていましたが、市内NPOの方たちが「なんとかしよう」と「岡山市・NPO協働推進協議会」を発足して、いっしょに協働を進めようと働きかけてくれたんです。条例改正では、アンケートやパブリックコメントだけでなく、誰でも参加できるフォーラムやワークショップを開き、市民の声を集めました。そこで得られた声をもとに改正条例の「市民案」がつけられ、市長へ提案されました。時間はかかりましたが、文字通り「市民がつくった」条例になったと思います。





岡山市の市民協働について、協働のまちづくり条例の改正と協働推進計画の策定に深く関わった(これから関わる)方々に教えてもらったよ！

インタビュー 「つながる協働ひろば」イメージキャラクター「のつぶ」

そもそも「協働」とはどういう意味ですか？

「岡山市協働のまちづくり条例」の第2条にて、「同じ目的を達成するために、互いを尊重し、対等の立場で協力して共に働くこと」と定義されています。岡山市では、市民と行政が手を取り合い、まちづくりに必要な活動を生み出してきました。

岩淵さんには改正条例に基づき設置された審議会「岡山市協働推進委員会」の初代委員長として、協働推進計画の策定や「市民協働推進(モデル)事業」及び「おかやま協働のまちづくり賞」の審査などをけん引していただきました。



元 岡山市協働推進委員会 委員長
岩淵 泰さん
(岡山大学 地域総合研究センター
准教授 副センター長)

岡山市の協働は他の自治体と比べて進んでいますか？

自治体ごとに抱えている課題や政策の優先順位が異なるため単純な比較はできませんが、2020年に全国112自治体の協働推進施策の整備・活用状況等を調査した「協働環境調査」の結果を見ると、岡山市は全国の自治体と比較しても「協働しやすい」まちであることが確認できました。改正された条例の内容が充実していたことが理由と考えられます。

石原さんは「岡山市・NPO協働推進協議会」の座長として、「協働のまちづくり条例」改正に向けた取組を主導されました。条例改正後も「岡山市協働推進委員会」の副委員長として、岩淵さんを支えていただきました。



元 岡山市・NPO協働推進協議会 座長
石原 達也さん
(NPO法人岡山NPOセンター 代表理事)

今後、岡山市の協働はどのように進められる予定ですか？

2025年度中に次の5年間(2026年度から2030年度まで)を対象期間とした第3次岡山市協働推進計画を策定します。2024年度末に第2次岡山市協働推進計画の検証と新たな計画づくりのためのワークショップを実施する予定なので、たくさんの市民の皆様にご参加いただけたらうれしいです。

中島さんは現在の市民協働推進担当者として、次期計画づくりに奮闘されています。



岡山市 市民協働局 市民協働企画総務課
中島 幸子さん



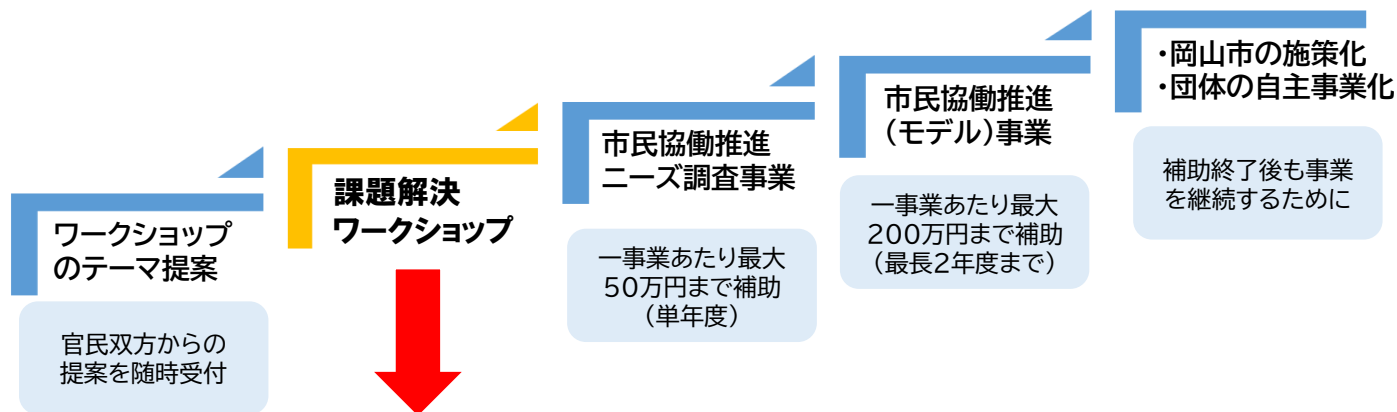
「岡山市協働のまちづくり条例」と改正の経緯、「岡山市協働推進計画」は岡山市のホームページにて閲覧可能です。
<https://www.city.okayama.jp/shisei/0000016163.html>



「課題解決ワークショップ」の実施

ESD・市民協働推進センターでは、2014年度以降、市民と行政がともに社会課題の解決策を考える場として「課題解決ワークショップ」を実施しています。参加者同士で問題意識・情報を交換し合う「課題共有」、課題の背景や原因を掘り下げる「課題分析」、協働による解決策と役割分担について考える「課題解決」の3つのステップを経て、「ニーズ調査事業」や「市民協働推進(モデル)事業」の提案につなげることを目指しています。

ワークショップの「テーマ提案」から「施策化・自主事業化」までの5ステップ



課題解決ワークショップの3ステップ



①課題の共有

- ・目標を共有する
- ・相互理解を深める



②課題の分析

- ・課題の構造を知る
- ・解決の仮説を立てる



③課題の解決

- ・事業計画をつくる
- ・事業予算をつくる

実施年度	ステップ② 実現したワークショップ数
2014	7テーマ
2015	17テーマ
2016	9テーマ
2017	6テーマ
2018	5テーマ
2019	1テーマ
2020	5テーマ
2021	未実施
2022	未実施
2023	未実施
計	50テーマ



ステップ③ ニーズ調査事業数	ステップ④ 市民協働推進事業数
—	10事業
2事業	7事業(うち新規3事業)
1事業	7事業(うち新規6事業)
3事業	8事業(うち新規5事業)
1事業	6事業(うち新規4事業)
4事業	6事業(うち新規4事業)
1事業	5事業(うち新規2事業)
0事業	4事業(うち新規2事業)
1事業	2事業(うち新規0事業)
0事業	2事業(うち新規2事業)
13事業	57事業(うち新規38事業)

※③ニーズ調査事業数、④市民協働推進事業数には②ワークショップを経ずに実施された件数も含まれています。

※2021年度以降は「コロナ」の影響などからワークショップを実施できていません。

過去のワークショップで取り上げられたテーマ(抜粋)

年度	テーマ/提案者(実施当時の名称)
2014	これからの旧内山下小学校について考える/NPO法人ENNOVA OKAYAMA これからの生物多様性について考える/大野ダルマガエル保全プロジェクト
2015	高齢者の外出支援について考える/NPO法人移動ネットおかやま&NPO法人陣屋 商店街の活性化について考える/岡山市 産業振興・雇用推進課
2016	若者の政治参画を進めるために/岡山市 選挙管理委員会 事務局 たけべ(中山間地域)のいいところを子孫の代まで残そう/たけべおこし
2017	自然との共生を実現する持続可能な鳥獣被害対策(主に食肉利活用)について/安信工業株式会社 外国人が居住に関して日本の文化や習慣で困らないためのしくみづくり/株式会社レオパレス21
2018	8050問題について考える/NPO法人まちづかい塾 子どもの貧困/岡山市 こども福祉課
2019	成年年齢の引き下げに伴う若者の消費者被害を防ぐ/NPO法人消費者ネットおかやま
2020	多頭飼育崩壊について考える/NPO法人岡山ニャンとかし隊 野良犬等の人馴れ訓練プロジェクト/岡山市 保健所 衛生課



同じ問題意識を持つ人同士が会い、情報交換をできる機会があることはとても大切だね。
テーマからは当時、どのような社会課題が市民の関心を集めていたかをふりかえることができるよ。



「課題解決ワークショップ」はいつでも誰でも提案できるの？

ワークショップのテーマ提案はいつでも、どなたでも可能です。ただし、意義のあるワークショップにするためには、「目的共有(ひとりよがりでないこと)」や「対等性(お互いを尊重し、役割を担い合うこと)」が重要となるため、すべてのご提案がすぐにワークショップの実施に至るわけではなく、提案内容に共感する部署や団体が存在していること、提案が行政等に対する一方的な要求となっていないことなどを確認してから実施しています。テーマの設定、ワークショップの進行、参加者集めなど、ESD・市民協働推進センターがお手伝いしますので、まずはお気軽にご相談ください。



ESD・市民協働推進センター
センター長
高平 亮

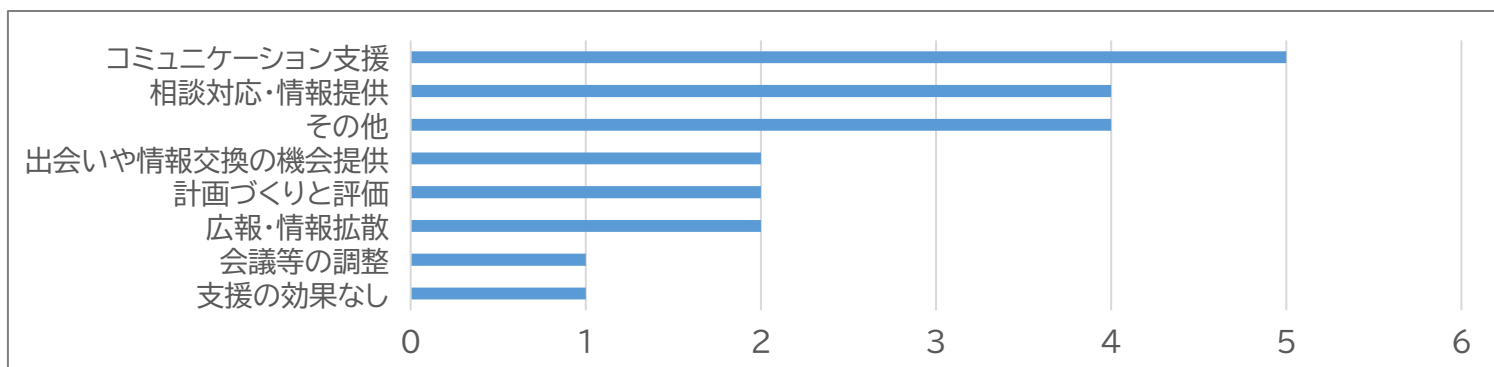
「市民協働推進(モデル)事業」の伴走支援

「市民協働推進事業(2014年度～2020年度までの名称は「市民協働推進モデル事業」)」は、官民の協働で岡山市の課題解決を進める事業に対して補助金を交付する制度です。制度が開始された2014年から2023年度までの10年間で38事業が実施され、そのうちの23事業が岡山市の新たな施策または実施主体の自主事業へつながりました。これは、それまで岡山市に存在していなかった21の公共サービスが市民活動団体と岡山市の担当部署の「ボトムアップ」によって新たに生み出されたということであり、協働推進でもたらされた大きな成果であると言えます。ESD・市民協働推進センターでは、これらの事業の伴走支援として、日常的な情報提供、実施団体と協働部署のコミュニケーション促進、ミーティングの進行と記録、中間及び最終評価などを実施してきました。

施策化または自主事業化に至った市民協働推進(モデル)事業の割合

A	2014年度から2023年度までに実施された事業数（1年ごとに事業数をカウントした場合）	57
B	「A」について、複数年継続して実施された事業を1事業としてカウントした場合の事業数	38
C	市の事業として一般施策化に至った事業数	21
D	一般施策化した事業の割合(C/B)	55%

2014～2018年度までに市民協働推進(モデル)事業を実施した21団体へ聞いた「最も効果があった支援」



施策化された事業(一部)の紹介 ※実施団体名、協働部署名は事業実施当時のもの

事業名	慢性疾患を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する場「ポケットスペース」		
実施団体	NPO法人ポケットサポート	協働部署	保健所 健康づくり課
実施年度	2016年度～2017年度(2年間)		
事業概要	病気を理由に学校を長期間欠席せざるを得ない子どもたちに対して、学習、交流、体験の支援を提供するとともに慢性疾患への理解と支援を広げるための啓発活動を行いました。2年間の補助事業終了後、新たに「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」が開始され、現在も病気の子どもたちとその家族をはじめ、病院、学校の関係者などを支え続けています。		



当時、私たちの活動が、既存の制度にあてはまることは知りながらも、どうすれば行政とやり取りができるのか、事業を受託できるのかという所までは行きついていませんでした。市民協働推進事業とセンターの伴走支援を通じて、行政との繋がりや、どの課と協働したら良いか等、具体的な道筋が見え、現在の事業化に至りました。



NPO法人ポケットサポート
(現在は認定NPO法人)
代表理事
三好 祐也さん

施策化された事業(一部)の紹介 ※実施団体名、協働部署名は事業実施当時のもの

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設等退所前学び事業 ・児童養護施設等退所児童へのアフターケア事業 		
実施団体	認定NPO法人子どもシェルターモモ	協働部署	<ul style="list-style-type: none"> ・こども総合相談所 ・こども企画総務課
事業概要	児童養護施設の退所後に困難に直面し、自立した生活を維持できなくなる子どもが多いことから、社会生活で困らないための知識等を退所前から身につけておくためのセミナーと施設の退所後に気軽に立ち寄ることのできる居場所や相談窓口を設けました。		



事業名	公民館への太陽光発電の設置と環境学習による持続可能な社会の推進事業		
実施団体	認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会	協働部署	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全課 ・中央公民館
事業概要	地球温暖化対策の実践と岡山市民への普及・啓発を目的として、岡山市内の2公民館の屋根に太陽光発電設備を設置したほか、再生可能エネルギー等について学ばる連続講座を実施しました。		


事業名	地域猫活動の普及啓発事業及び活動推進事業		
実施団体	NPO法人岡山ニャンとかし隊	協働部署	保健所 衛生課
事業概要	飼い主のいない猫による糞尿被害や住民同士のトラブル等を解消するため、「地域猫活動」の普及・啓発を目的とした説明会・関連資料のほか、活動を開始する団体への具体的な支援メニューを新たに開発しました。		



事業名	生活困窮など困難を抱える学童期の子どもの学習習慣の定着を図るためのICTを活用した学習サポート事業		
実施団体	NPO法人あかね	協働部署	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護・自立支援課 ・こども福祉課
事業概要	生活困窮世帯の子どもたちが特性や環境等の問題から学校の勉強についていけず、進学や就職の選択肢が狭まる「貧困の連鎖」を予防するため、タブレットと独自教材による個別の遠隔学習支援を実施し、学習習慣の定着を促しました。		

ここで紹介したものの以外にも市民協働推進事業を経て、岡山市のセーフティーネットの拡充や暮らしやすさと魅力の向上に貢献する事業がたくさん生まれています。この成果は事業の実施団体と協働部署がしっかりと実績を残し、事業の必要性が認められたことによるものです。このような事業が一つでも多く生まれるようにセンターも力を尽くしたいと思います。





おかげさまで、ESD・市民協働推進センターは、2014年6月17日の事業開始から10年を迎えることができました。これまで、センターを訪れ、相談や打ち合わせで活用してくださった、のべ5,400名の皆様とセンターが実施する各種事業にご参加くださった皆様に心より感謝を申し上げます。

ESD・市民協働推進センターはこれからも岡山市民と岡山市(行政)をつなぐ「協働のコーディネート機関」として、よりたくさんの、より充実した協働の実践をお手伝いしていきます。特に2024年度は、コロナ禍で減少した相談件数と市民協働推進事業の提案件数の回復と第2次協働推進計画の達成に力を注ぐ予定です。

来年度(2025年度)は「おかやま協働のまちづくり賞」が開始から10回目となり、「第3次岡山市協働推進計画」の策定が本格的に開始される予定です。さらに再来年度(2026年度)には「岡山市協働のまちづくり条例」の改正施行から10年を迎えるなど、大きな節目を控えています。ひきつづき、様々な観点から「岡山市の協働推進の10年」を振り返り、次の10年に向けた情報を発信してまいりますので、これからもESD・市民協働推進センターと「おかやま地域づくり通信」にご注目ください。

ESD・市民協働推進センター
スタッフ一同

発行日:2024年(令和6年)7月25日 発行元:ESD・市民協働推進センター
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市役所 本庁舎2階 市民協働企画総務課内
TEL:086-803-1062 / FAX:086-803-1872 / E-mail:esd-smc@googlegroups.com